

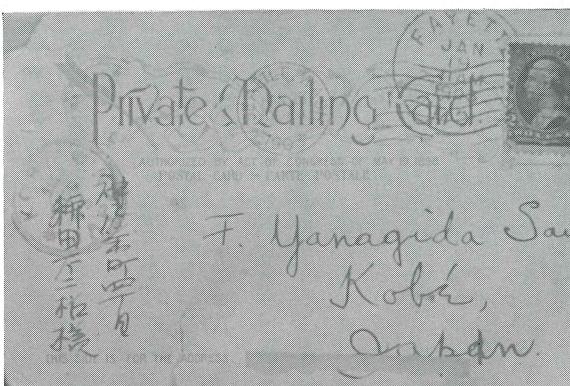
化学工学を学んだ最初の日本人*

吉田文武**

最近筆者らは京都大学化学生業教室の歴史を分担執筆したがそれに関連して興味ある史実を確かめたので、ここに紹介したい。

京大の工業化学科に化学機械学講座（化学生業科の前身）が創設されたのは大正十一（一九二二）年五月であった。それ以前に化学生機械学（化学生業）の講義は九大や東大で行われていたが、我が国の大学の官制として化学生業専門の講座が設けられたのは

京大が最初であった。



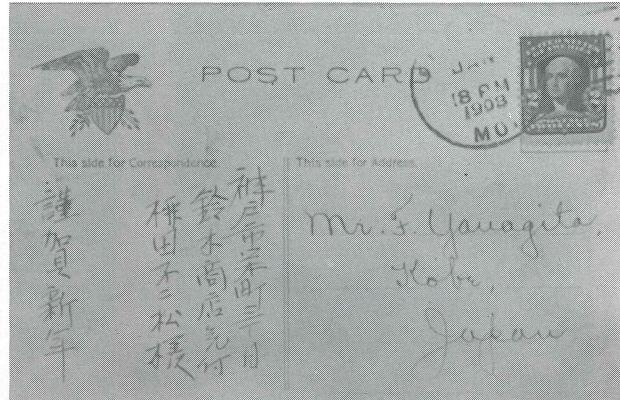
▲1903（明治36年）のスタンプが押してある。

このような講座の設置を申請したのは当時の京大工業化学科の教授達の筈であるが、一体誰の発案だったのかと興味をそそられ、大正十年に京大工業化学科を卒業して教室に残ら、当時の事情をご存知の岡田辰三名譽教授に伺ったところ、意外なご返事であった。当時の工化教室の教授連が近畿の各社の工場見学に廻った際、米国に

留学した神戸の鈴木商店の「御曹子」などから、米国では早くから chemical engineering の学科が純化学科と併設される事情を聞き、京大にもそのような講座を設置すべきだと考えて文部省に申請した。」とのことである。しかし岡田先生もその「御曹子」の名前や、どこで何を勉強した人かは憶えておらなかつた。

鈴木商店といつても、今日では知らない人も多いかも知れないが、明治十年頃鈴木岩治郎によって創立され、大正八、九年頃には三井物産と並ぶ世界的な大商社であった。貿易のほか、当時の神戸製鋼所、豊年製油、帝国樟脑、太陽曹達、帝国人絹クロード式窒素肥料（東洋高圧の前身）など多くの事業を經營していたが、昭和二年に破綻し、後に日商株として更生した。米国に留学した鈴木商店の「御曹子」が誰かはなかなか判らなかつたが、日商の社史に転載されている大正十二年の大阪毎日新聞に、「次男坊岩蔵君はつとに米国に渡つてボストン大学に学び、応用化学を修めた」というんだから正真正銘の新知識、時々外国雑誌を引繕り返して焼直し、専門の技術家連を頭からまくしたてる位の腕があるそうだ。総じて貴公子然だる意地張りだともいわれている。まあ上出来の方だろう。」

ボストン大学とはボストンにある MIT のことかも知れないと思つたが、日商岩井や後述の松下重男氏のところへ問合わせると、鈴木岩蔵（一八八四—一九五二）三頁写真一は初代岩治郎の次男



▲1903（明治36年）のスタンプが押してある。

で、米国で“セントラル大学”と“インスティチュート・オブ・テクノロジー”的二つの大学を卒業したという。前者は、一九〇八年本人自筆の絵はがきの消印から Missouri 州の Fayette という町にある Central College と推定されたが、後者は多分 MIT (Massachusetts Institute of Technology) に違いないと想い、現在 MIT の化学生業科の主任教授である Prof. James Wei に手紙を出して調べて貰つた。果して『Ewazo Suzuki』は一九〇八年秋に MIT に入學し、一九一一年（明治四五年）に chemical engineering の学士号を得て卒業した。彼が京大の化学生業講座の創設に影響を与えた、貴教室の今日の隆盛に当教室がささやかな寄与をしたことを知り喜んでいる』旨の返事があつた。

いうまでもなく、MIT は化学生業発祥の地であり、古く MIT に留学した日本の化学生業者には吉川玉吉（旧浜松高工）、岡村幸雄（旧横浜高工、後に名大）、龜井三郎（京大）、八田四郎次（東北大）、内田俊一（東大）の諸教授がおられるが、これらの先生方の留学は大正末期から昭和の初期のことである。鈴木氏はそれよりも十年前に、正規のコースを経て、MIT の化学生業科を卒業した。

吉田文武**

留学した神戸の鈴木商店の「御曹子」などから、米国では早くから chemical engineering の学科が純化学科と併設される事情を聞き、京大にもそのような講座を設置すべきだと考えて文部省に申請した。」とのことである。しかし岡田先生もその「御曹子」の名前や、どこで何を勉強した人かは憶えておらなかつた。

鈴木商店といつても、今日では知らない人も多いかも知れないが、明治十年頃鈴木岩治郎によって創立され、大正八、九年頃には三井物産と並ぶ世界的な大商社であった。貿易のほか、当時の神戸製鋼所、豊年製油、帝国樟脑、太陽曹達、帝国人絹クロード式窒素肥料（東洋高圧の前身）など多くの事業を經營していたが、昭和二年に破綻し、後に日商株として更生した。米国に留学した鈴木商店の「御曹子」が誰かはなかなか判らなかつたが、日商の社史に転載されている大正十二年の大阪毎日新聞に、「次男坊岩蔵君はつとに米国に渡つてボストン大学に学び、応用化学を修めた」というんだから正真正銘の新知識、時々外国雑誌を引繕り返して焼直し、専門の技術家連を頭からまくしたてる位の腕があるそうだ。総じて貴公子然だる意地張りだともいわれている。まあ上出来の方だろう。」

ボストン大学とはボストンにある MIT のことかも知れないと思つたが、日商岩井や後述の松下重男氏のところへ問合わせると、鈴木岩蔵（一八八四—一九五二）三頁写真一は初代岩治郎の次男

